

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

果樹カメムシ類新世代の発生状況（技術情報第 11 号）について（送付）

果樹カメムシ類について、8月上旬からヒノキ球果上の新世代虫数および予察灯誘殺数が増加しています。果樹園へ飛来する可能性が高まっており、注意が必要です。

記

1. 発生状況：

- 1) チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺虫数は、各地点とも8月第2半旬以降急増したが、合志市、宇城市では第5半旬をピークに減少している。また、8月第4～6半旬の累積誘殺虫数は、宇城市が平年比多、合志市が平年比やや多、天草市が平年比やや少であり、地域により差がみられた(表1、図1)。
- 2) ヒノキ球果に寄生する新世代成幼虫数は、8月中旬から急増し、9月上旬現在、9.3頭/5枝(平年値4.8頭/5枝)と平年比やや多であった(図2)。また、幼虫の割合が24%であったことから、今後も成虫数が増加すると思われる。
- 3) ヒノキ球果の口針鞘数は8月上旬から増加し、9月上旬現在、13.9本/果(平年値18.6本/果)と平年比やや少であった(図3)。
- 4) 一部の地域では球果からの離脱が始まるとされる口針鞘数(25本/果)に達しているものの、現在のところ樹園地の被害報告はない。
- 5) 現在の状況から、ヒノキの球果からの離脱時期は7月下旬に予測された期日(9月2日以降)より遅れると考えられる。ただし、新世代の発生量は多く、離脱が始まった場合園地への多飛来が予想されるため、今後は園内での見回りを徹底し、発生に注意する。

2. 対象作物：カンキツ類、カキ、ナシ

3. 防除上注意すべき事項：

- 1) 果樹カメムシ類は、主に山林のスギ・ヒノキ球果を餌として増殖する。球果の口針鞘数が25本/果を超えると餌の状態が悪くなり、増殖場所から離脱して周辺の果樹園に飛来する。
- 2) カメムシ類の発生時期や飛来量は地域差や園地間差が大きい。また、同一園内でも局在するので、園内を観察し、早期発見、早期防除に努める。
- 3) 果樹園への飛来や被害を確認したら、カメムシ類が移動する夕暮れ時や早朝をねらい薬剤を散布する。防除にあたっては、必ず収穫前使用日数や使用回数を遵守する。また、他作物への薬液の飛散にも十分に注意する。
- 4) 薬剤散布により、ハダニ類、カイガラムシ類が増加する場合がありますので注意する。

表1 各地域の予察灯におけるカメムシ類の誘殺状況  
(8月4半旬～6半旬の合計)

地域名	チャバネアオカメムシ	ツヤアオカメムシ
合志	724(403)	39(115)
宇城	3,350(241)	321(62)
天草	2,161(3,384)	242(937)

単位：頭、( )は平年値

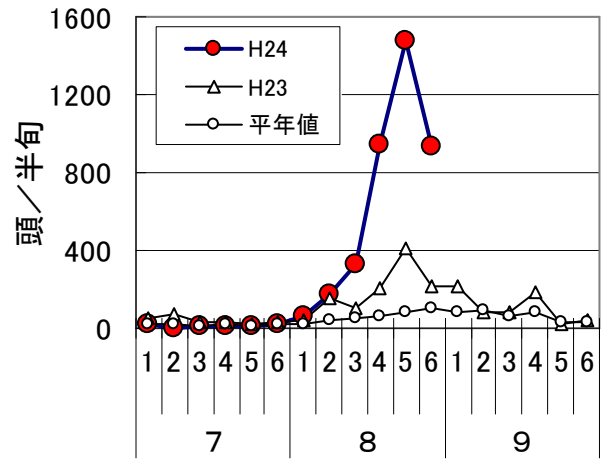
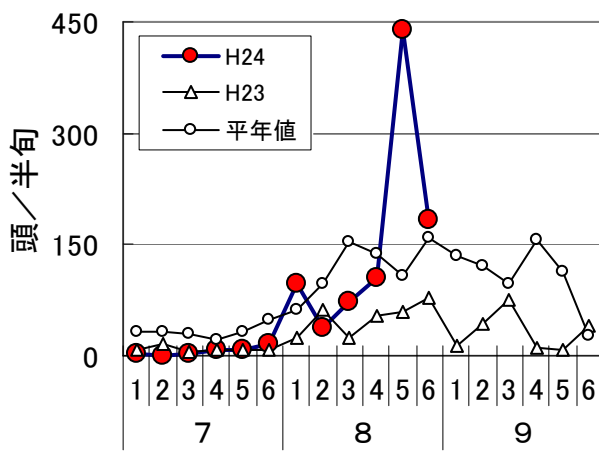


図1 予察灯によるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移 (左：合志市、右：宇城市)

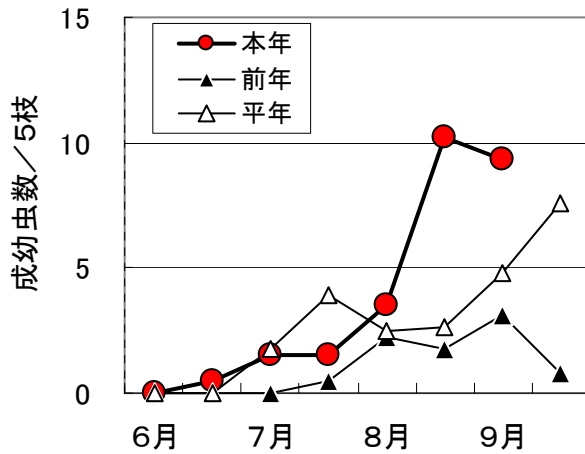


図2 ヒノキ球果に寄生する成幼虫数の推移 (ビーティング調査)

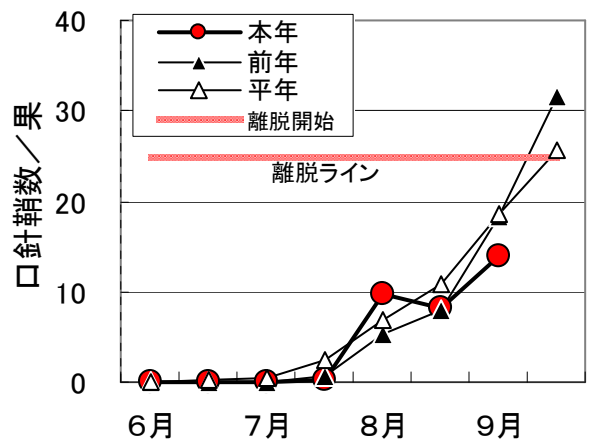


図3 ヒノキ球果口針鞘数の推移

問い合わせ先  
熊本県病害虫防除所  
(生産環境研究所)  
担当:清永  
TEL 096-248-6490